

JAFSA 研修プログラム(過去の実施例)

「国際教育交流初任者コース～送り出しの基礎～」研修報告

2007年9月21日～22日(於 日米教育委員会)

今回の研修は、東京・赤坂にある日米教育委員会において、全国の国公立・私立大学および専門学校などから20名の参加者を集めて開催された。職員・教員、またそれぞれの役職にかかわらず、参加者すべてが国際交流関連業務担当の初任者として謙虚な姿勢で臨むことができ、また終始和やかな雰囲気の中行われた。



～講義の様子～



～真剣に耳を傾ける受講者～

◎講義Ⅰ『国際教育交流の理念と戦略』

講師:服部 誠 氏(一橋大学)

大学の「起源と歴史」から始まり、現代世界の大学勢力地図とその中における日本の大学の位置と評価、そして世界の留学の状況と日本人の海外留学状況と、留学の全体像を包括的に学んだ後、服部氏が作成された「学生送り出しナビ」を用い、参加者各々において具体的な業務の総点検・見直しを行った。日常業務や留学プログラムの改善のためには、より多角的・包括的な視点が必要であることを再認識した。

◎講義Ⅱ『様々な派遣留学』

講師:服部 誠 氏(一橋大学)

各大学で行われている最新の派遣プログラム事例やそれへの取り組みから、今後の留学プログラムの可能性を見出す。これまでは語学留学が主であったが、今回事例発表のあった派遣プログラムには、海外ボランティアや海外インターンシップといった体験型プログラムへのシフトチェンジが多く見られ、これからの派遣プログラム開発にあたり、大いに参考となる講義であった。

◎講義Ⅲ『アメリカへの留学-情報提供と相談の受け方』

講師(情報提供):市川 敦子 氏(日米教育委員会)

講師(相談):渡邊 美由紀 氏(元日米教育委員会)

まず日米教育委員会が実施しているフルブライト留学プログラムについて、その歴史と内容の説明があった。また、学生へのアドバイジングの際に留学担当初任者として陥りやすいミスを極力起こさないようにするための、資質・知識を、時には心理学的なアプローチから学んだ。アメリカ留学に関する最新情報を随時更新・蓄積し、かつ正確な情報を学生に提供するという日米教育委員会の真摯な姿勢に感銘を受けた。

◎ワークⅠ『留学の学習効果を高める-出発前トレーニングの目的と実際』

講師:阿部 仁 氏(一橋大学)

スムーズな異文化適応ができるように、ステレオタイプや偏見にとらわれない思考の転換方法を学ぶワークを実施した。また、リエントリー支援の重要性についても話し合った結果、国際交流に関わるセクションだけでなく、教務担当・学生生活担当・就職担当など、他のセクションともタイアップして帰国した学生を全面的にサポートすることの大切さを新たにした。

◎ワークⅡ『より良い派遣留学の企画、開発 No.1』

講師:塩川 雅美 氏

派遣留学プログラムの企画・開発にあたっての、プログラムの全体像を見直すための講義を受けた。プログラムの広報にはじまり、帰国後のケアに至るまでの一連の業務の説明を受けた。講師の経験に基づいた様々なアイデアが提供され、大変有益な講義であった。

◎ワークⅢ『より良い派遣留学の企画、開発 No.2』

講師:市川 敦子 氏(日米教育委員会)

まず一般的に大学で行なわれている出発前オリエンテーションとは少し視点の違った、日米教育委員会の出発前オリエンテーションについての紹介があった。周到な準備や実施にあたっての手厚いケアが行なわれていることに感銘を受けた。

◎講義Ⅳ『派遣留学の危機管理』

講師:服部 誠 氏(一橋大学)

留学において想定される危機の種類多様性、海外の治安、起こりうる事故に対するリスクマネジメントのあり方など危機管理全般について説明があった。協定書・契約書面上に危機管理に関する

る細目を制定するに至るまでの周到さには、服部氏の危機管理のスペシャリストとしての経験・知識の豊富さを感じ、終始驚かされるばかりであった。

◎講義Ⅴ『国際教育交流の担い手とプロフェッショナリズム』

講師：講師陣

今後予想される日本の大学の変革にはじまり、それに伴う職員一人ひとりのプロ意識と技術の向上、キャリアデザイン、業務の円滑化、担当者の育成と能力開発方法など、国際交流担当者に的を絞ったものではなく、これからの日本の大学に働く者に共通して求められる職員のあり方について講義を受けた。また、国際交流担当者の専門性を高めるための具体的な案も提供され、今後の自らの将来やキャリア像を考える上で大変有益な講義であった。

◎総括

多彩な講師陣の皆様のおかげで、終始和やかな雰囲気の中で研修に参加することができました。業務上の情報・知識の収集・提供のみならず、他大学の国際交流担当者との人脈形成・情報交換を行うことができたことは今回の研修に参加した何よりの収穫でした。今回この研修を通して学びえたことを少しでも多く実際の業務へ還元し、今後のプログラムの充実や学生のケアに活かしていきたいと思っています。最後になりましたが、講師陣の皆様、研修会に参加した皆様、ありがとうございました！

報告者：山口 恵子氏(桃山学院大学)、西本 祥多郎氏(桃山学院大学)